

2026 年 年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長

高柳 俊夫

クロマトグラフィー科学会の会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。会員の皆様には、平素より本会の活動にご理解とご支援を賜りまして、心よりお礼申し上げます。このたび第 19 期の会長を仰せつかりました徳島大学の高柳でございます。会長就任にあたり、浜瀬前会長はじめ歴代会長の皆様が積み上げてきた歴史を、新しい執行部・理事・役員の皆様とともに継承し発展させてまいります。第 19 期は北川慎也 副会長兼編集委員長、植田郁生 事務局長の体制で運営してまいります。至らぬ点もあるかと存じますが皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。さて、2026 年の年頭にあたり、本会の活動状況をご報告申し上げます。

クロマトグラフィー科学会は 1989 年に発足し、クロマトグラフィーをはじめとする分離・検出とその関連技術に特化した国内最大の学会として活動を続けてまいりました。年 2 回の学術集会（初夏のシンポジウムと秋の科学会議）の開催、会誌 CHROMATOGRAPHY 誌の編集・発行、優れた業績を挙げられた会員への表彰など、様々な事業を継続し、会員の皆様とともに歩んでまいりました。昨年 2025 年には、第 32 回クロマトグラフィーシンポジウムが大山実行委員長（長崎大）のもと長崎にて開催され、第 36 回クロマトグラフィー科学会議が久保実行委員長（京都府立大）のもと京都にて APCE2025、第 6 回日中分離科学シンポジウムとジョイント開催されました。多数の皆様にご参加いただけましたこと、厚くお礼申し上げます。なお、今回の日中分離科学シンポジウムは本会の主催であり、前回の大連開催以来 7 年ぶり、日本開催としては 2005 年の岐阜以来 20 年ぶりの開催でした。久保実行委員長のご尽力もあり、盛会のうちに終了することができました。

また、ここ数年来の懸案事項でした年会費の改定につきまして、昨年 9 月の総会にてご承認いただきました。本会 HP に掲載された浜瀬前会長からのお知らせにありますように、1989 年の本会創設時から据え置いてまいりました年会費を本年度より改定させていただきます。昨今の急速な物価上昇にとともに CHROMATOGRAPHY 誌の印刷費や郵送費などの諸経費が増加しているため、学会活動を持続可能な形で継続するための改定です。会員の皆様には、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。今後も会誌のさらなる充実など、会員サービスに努めてまいります。

CHROMATOGRAPHY 誌につきましては、歴代の編集委員長のご尽力により DOI の付与、Impact factor の取得がなされてきました。さらに北川慎也編集委員長を中心にオープンアクセス化を進め、投稿規定の改定も行いました。編集委員会では、さらなるビジビリティの向上に向けた検討を進めています。本誌をさらに魅力的なジャーナルとすべく、会員の皆様からのご投稿を引き続きお待ちしております。

本年 2026 年の行事としては、第 33 回クロマトグラフィーシンポジウムを梅村実行委員長（東京薬科大）のもと、6 月に八王子で開催する予定です。また、第 37 回クロマトグラフィー科学会議を、小職が実行委員長を務め 11 月に徳島にて開催予定です。各イベントの詳細は、本会 HP(<https://chromsoc.jp/>)とリンク先の実行委員会 HP でご確認ください。本年も「CHROMATOGRAPHY Best Presentation Award」,「CHROMATOGRAPHY Outstanding Student Paper Award」, トラベルアワードを継続しますので、多くの皆様のご参加・ご発表を心よりお待ちしております。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、本会のさらなる発展のため、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。